

人・郷・未来

渡辺ひろみち市政報告

平成28年新春号・大山地区版

発行：篠山市議会議員 渡辺拓道 連絡先：篠山市大山宮（園田分）239
電話・ファックス：079-596-0677 携帯電話：090-7551-8324
*固定電話番号 596-0107 は現在使っていません。連絡は上記にお願いします。



ネパール大震災被災地の子ども達と

新年あけましておめでとうございます。

昨年は中東の不安が全世界に及んだりネパールなどで大きな災害がありました。日本では、安倍政権の決める政治に激しい賛否がありました。篠山では、日本遺産認定やユネスコ創造都市の仲間入りができました。大山地区では、住民あげての防災訓練や荘園文化フォーラムが盛大に開催されました。篠山や大山の持つ価値が高まり次のステップになったのではないかと思います。

今年は、全国各地で地方創生の動きが本格化する年です。篠山はその先導をいかなければならないと考えます。市内の19地区の価値をさらに高め、人の対流を増やし、仕事をつくっていくことで人口減少に歯止めをかけます。

少しずつ見える成果が出てくることで笑顔と自信が増えていく一年になりますように。篠山に関わる皆さんが健康で幸せと実感できる一年になりますように。

平成28年 元旦

篠山市議会議員

渡辺拓道

Q. 渡辺ひろみちはこの4年に何をしてきたの？

A. 政策立案など裏方に徹した4年間でした。

市長に要望するだけではなかなか課題は解決しません。議会内の同志と力を合わせて市政の改革に努めてきました。医療福祉、教育、農業、定住などの課題に具体的案を作成して提案したり、議会そのものの改革を進めました。今回の市政報告では、そんな裏方の仕事のいくつかを報告させていただきます。

まず、この4年間も多くの要職を任せていただきました。前半は議会運営委員長として議会改革を進めました。当時関西では例がなかったタブレットを使った議会運営を導入するとともに、市民の皆さんの声を受け止めやすい仕組み(要望等の取扱い手順の改善など)を整えました。後半では、重要な特別委員会にかかわり、特に少子化定住促進対策特別委員として人口動態の詳細な分析を行うとともに市内19地区ごとの定住促進に役立つ人口予測シートを作成しました。

会派の幹事長の立場で深くかかわった政策調査の結果は、現在の篠山市政に多方面で活用されています。

(4年間の主な役職)

平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
議会運営委員長		総合計画調査 特別委員会委員長	
文教厚生常任委員		総務文教常任委員	
		少子化定住促進対策 特別委員会副委員長	
会派 青藍会幹事長			

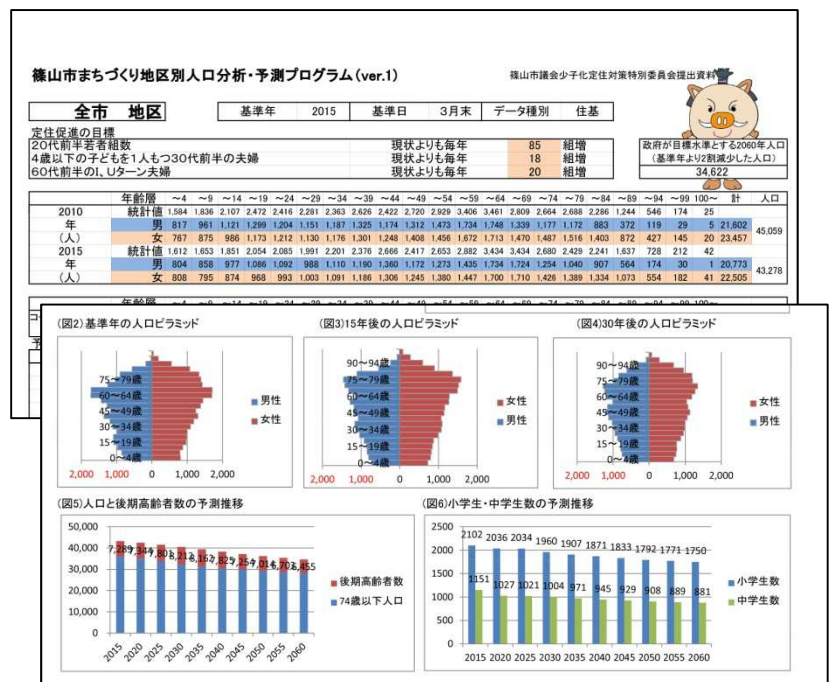
Q. 「地区別人口予測シート」って何？

人口減少とそれに対する定住対策は篠山市の大きな課題です。

しかし、これまでは具体的に何人に定住してもらえれば、極端な人口減少を避けられるのか明確ではありませんでした。

今回、島根県の例を参考にして地区の人口を維持するには毎年何組の定住者が必要かを計算できるシートを独自に作成し提案しました。市も地域戦略でシートの活用を検討しています。

シートを活用すると数組の定住者や定年後Uターンが人口維持に大きく寄与することが分かります。

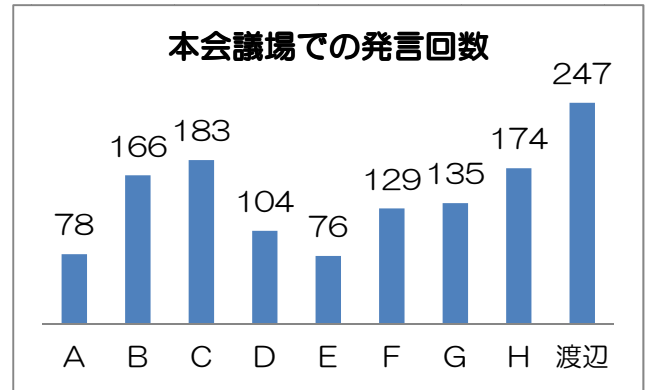


Q. 渡辺ひろみちは「うるさい」議員とされているの？

議員の仕事のひとつに行政のチェックがあります。チェックの方法は、資料を調べたり質問で明らかにする方法があります。

グラフは、第 84 回臨時会(24.5.1)から第 101 回定例会(27.10.1)の本会議での発言回数(議会三役と委員長報告のある3常任委員長除く10議員)です。本会議での発言回数は、247回と最も多くなっています。

市役所内から渡辺議員は「うるさい」との声が聞こえていましたが、やはり一番質問していたことが数字でも明らかになりました。議員に対する「うるさい」は褒め言葉と受け止めています。

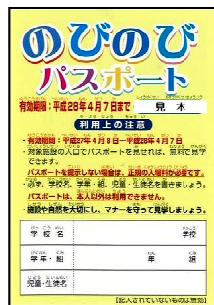


最近の一般質問について

須磨水族園が無料に・・・

第 100 回定例会

子ども達の学習機会の向上にと神戸市が中心になり展開している市営博物館等の相互無料連携「のびのびパスポート」制度への加入を提案しました。

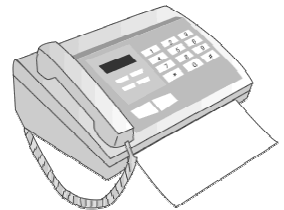


事前に神戸市に根回しを行っていたこともあり、この4月から市内小中学生に「のびのびパスポート」が配布されるようになりました。このパスポートで阪神淡路などの市営施設が無料で利用できます。施設には人気の須磨水族園や手塚治記念館も含まれています。

自治会放送整備改修に補助金新設

第 100 回定例会

自治会内の情報伝達がより大切になってきています。しかし、放送設備の新設や改修には多額の費用がかかる問題がありました。他の市町では情報伝達設備に補助制度があることが分かり、市に制度の新設を求めました。

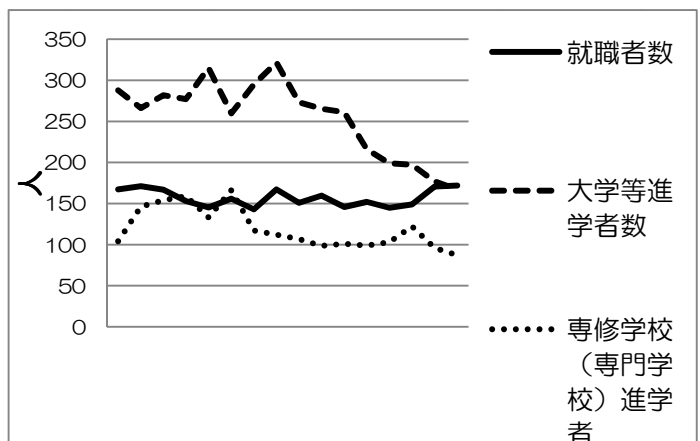


早速昨秋に補助制度ができ最大 500 万円(新設・改修の別、自治会世帯数により上限決定、補助率 1/2)の補助が受けられるようになりました。先日は市東部の市民の方からお礼のお言葉をいただきました。

市内高卒者、大学進学者数急減

第 102 回定例会

右の市内高校生の進路状況の変化のグラフを示して、「大学等進学者数が就職者数を下回ったことは鳳鳴高校のクラス数の減少だけの影響とは考えにくい、留意すべきである。」と指摘しました。



渡辺ひろみちの通信簿 ～2期目の自己採点～

前回の選挙前に掲げた約束が実行できたのか、できなかったのか。自分自身で採点してみました。最も意識してきた「篠山の役割」はこの4年で明確になりました。また、子どもの育つ権利として取り組んできた「学力向上」については成果が表れ始めました。しかし、まちの活力づくりについては実感できるだけの成果を上げることができませんでした。

選挙前の約束	自己評価	
<p>篠山の役割を明確にする</p> <p>篠山には、農の営みからつくられてきた「心豊かな暮らし」とそれを大切にしようとする「農の価値観」が残っています。篠山の役割は、今後世界的に評価の高まる日本文化の価値を守りながら、時代に合わせて高めていくことです。</p>	<p>市が策定した「創造農村推進計画」を一貫して応援してきました。平成27年度に、篠山市は「日本遺産」に認定され、良き伝統を活かしながら新しい挑戦を行う世界的モデル都市の仲間入り（ユネスコ創造都市ネットワーク加盟）ができました。そして、酒井市長は篠山の役割は「地方都市のリーダー」となることだと明言しました。</p>	A
<p>篠山市議会の改革</p> <p>平成23年度に制定された議会基本条例の精神に基づき議会改革を進めます。</p>	<p>議会運営委員長として「議会報告会実施要綱」「政策討論会実施要綱」「市議会災害対策本部設置要綱」「要望書等取扱マニュアル」を取りまとめるとともに、6年ぶりの常任委員会の見直し、タブレット端末導入による議会のICT化を推進しました。</p>	A
<p>市西部の活力創造</p> <p>動く関西に対応できる市西部の地区づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●唯一整備を進めてきた道路「大沢新栗栖野線」を活用した定住促進 ●山南篠山線の整備促進と篠山層群の活用 ●駅インター周辺の整備に配慮した活力創造 ●5駅を起点とした観光・地域振興 ●丹波茶の活用 ●子育て環境の充実 ●丹波並木道中央公園の活用 	<p>市内の新しい道路整備をゼロにしようとする検討がなされていましたが、市西部の道路の必要性を訴えて将来の道路整備計画を維持しました。</p> <p>並木道中央公園の玄関駅である丹波大山駅に水洗式公衆トイレを整備しました。</p> <p>また、同公園に化石体験施設が整備されることになり、将来の入園者数増が期待できるようになりました。</p>	B
<p>まちの活力づくり</p> <p>防災・価値創造の産業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●山林、小河川の防災、減災対策工事の推進 ●農業基盤施設の維持 ●認定農業者や意欲ある農業者を支援 ●地域生活を守る中小企業の支援 ●農を核とした産業創造 ●「ハレ」観光の推進 ●丹波立杭焼の市内普及 ●女性の地域活動～起業を支援 	<p>2年前の大雨災害発生時には、大山の被災状況を災害対策本部につなぎ早期復旧に努めました。特に被害の大きかった町ノ田の道路陥没、一印谷の林道崩落、二宮神社の土石流入については地域の皆さんの活躍が大きかったと思っています。</p> <p>議会内同志と農都創造条例の制定を推し進めました。</p>	B-

未来への 決断・篠山の役割

変わる国のしくみ～政治の覚悟

なかなか課題解決が進まない国政には、私も危機を抱えています。



特に高まる福祉のニーズに対して出口の見えない年金、健康保険改革にはうんざりしています。早急にしっかりとした制度の大枠と財源を決めていただきたいのです。

橋下徹大阪市長と大阪維新の会への感心を高めています。表面的には大阪の改革ですが、限界を迎えているこれまでの中央集権のしくみを変えようというのが真の狙いがあります。

大阪維新の会ほどには立ちませんが、関西2府5県でつくる関西広域連合は新しい時代に向け確実に動き出しています。

篠山の政治も変化に対して覚悟を決め、進むべき道の説明・説得に努める必要が出てきました。

篠山市議会の改革～議会基本条例

4年前より、私は篠山市議会に決断・説明・説得ができる仕組みを持たせるべきであり、それを可能にする基本条例が必要であると断ってきました。

そして昨年12月、苦勞の末「篠山市議会基本条例」を制定することができました。

平成23年12月22日制定 篠山市議会基本条例
篠山市のホームページからダウンロードできますのでご覧ください。

この条例のもとに4月以降は正式に「議会報告会」や「政策討論会」ができるようになりました。これにより、議会の説明力・説得力が高まるとともに、市民の皆さんの意向がより政治決断に反映できるようになります。

また、この条例は関西の中で篠山が果たすべき役割を考え、施策を決定していくときに役立ちます。

「篠山の役割」とは～

ブータン国王の来日でGDPだけでなく「国民総幸福量」に価値を見出す人が増えました。また、東日本大震災を機に日本の精神文化の高さが世界の憧れとなりました。

これから都市間競争に立ち向かうとする関西が戦略上もっとも重要とするのも日本文化です。篠山はその文化、価値を担える立場にあるのです。

篠山には農の営みからつくられてきた「心豊かな暮らし」とそれを大切にしようとする「農の価値観」が残っています。篠山の役割は、今後世界的に評価の高まる日本の文化の価値を守りながら、時代に合わせて高めていくことです。



4年前の約束

前回選挙前に配布した市政報告から

渡辺ひろみちが考える 篠山のなすべきこと



- 西の活力**
 - 唯一整備を進めてきた道路、「大沢新築野線」を活用した定住促進
 - 山南篠山線の整備促進と篠山郡群の活用
 - 駅インター周辺に配慮した活力創造
 - 5駅を起点とした観光・地域振興
 - 丹波茶の活用
 - 子育て環境の充実
 - 住吉台の福祉対策
 - 丹波並木道中央公園の活用
- まちの活力**
 - 防災・価値創造の産業づくり
 - 山林、小川川の防災、減災対策工事の推進
 - 農業基盤施設の維持
 - 認定農業者や意欲ある農業者を支援
 - 地域生活を守る中小企業の支援
 - 農を核とした産業創造
 - 「ハレ」観光の推進（※）
 - 丹波立杭焼きの市内普及
 - 持続的な山林管理体制づくり
 - 女性の地域活動～起業を支援（※）
 - 非日常が味わえる体験農業や田舎暮らし体験などの観光
- 教育・文化**
 - 子どもの育つ権利を保障する
 - 責任の取れる教育行政づくり
 - 子ども達の海外短期留学を推進
 - 歴史文化基本構想の実現
 - 民俗資料館の開設
 - アジアとの交流
- 福祉・暮らし**
 - 地域医療の堅持 共助の地域づくり
 - 地域福祉環境の整備
 - 安心な社会福祉制度の維持
 - まちづくり協議会支援
 - 集落営農の支援
 - 獣害対策の推進
- 財政**
 - 特別会計等の健全化
 - 篠山再生計画の確かな推進
 - 繰上げ返済による上下水道会計の借入金（起債残高）の低減

選挙前の約束	自己評価	
<p>教育・文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの育つ権利を保障する ● 責任の取れる教育行政づくり ● 子ども達の海外短期留学を推進 ● 歴史文化基本構想の実現 ● 民俗資料館の開設 ● アジアとの交流 	<p>子どもたちが持っている力を引き出す教育、大人総がかりでの子育て支援をめざして、「学力向上」、「コミュニティスクール制度」の導入に取り組みました。</p> <p>民俗資料館については、とりあえず「デカンショ伝承館（仮称）」が設置されることになりました。</p> <p>国際交流については、課題残りしました。</p>	B
<p>福祉・暮らし</p> <p>地域医療の堅持 共助の地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉環境の整備 ● 安心な社会福祉制度の維持 ● まちづくり協議会支援 ● 集落営農の支援 ● 獣害対策の推進 	<p>獣害対策、集落営農については、一貫して力を注ぎました。</p> <p>議会内同志と看護師等確保のための奨学金を創設しました。</p> <p>大山にも大山小児童を対象とした学童保育サービスが始まることとなりました。来年度から神田荘の一室で行われます。</p>	B
<p>財政</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 篠山再生計画の確かな推進 ● 繰上げ償還による上下水道会計の借入金の低減 	<p>財政健全化の前倒しを主張し続け、財政の収支バランスがとれる年度が一年前倒しされ平成31年度になりました。繰上げ償還は実現しませんでした。</p>	B
<p>その他の取り組み</p>	<p>甚大な被害を受けながらも、国の支援制度の対象とならない災害被災者の生活再建を支援する条例案を書き上げ、多くの議員の理解を得ながら「被災者生活再建支援条例」を制定することができました。議員発議による政策提案型条例は篠山市議会初です。</p>	A

市政情報 2

その他、議会でも話題となった市政の情報をお知らせします。

大山の水道水が改善

大山地区の水道水は、川代ダム近くの地下水を浄水してつくられています。ところが大山下の浄水設備も老朽化してきてきました。

このため篠山市は、安心な水を安定的に供給するための準備を進めています。具体的には、大山下の浄水機能を停止し、大山より南側に配水されている県水（水源：三田市青野ダム）が大山全域に供給されることとなります。

これにより、水量水質的にも安定した水を利用していただけるようになります。夏場に水質が悪い等のご意見がなることを期待します。平成28年中に切り替えが完了する予定です。



大山全域の獣害防護柵設置に目処

大山地区は谷が多い地形であり、猪や鹿の被害を防ぐ獣害防護柵の設置にご苦労いただいていたいました。

現在地区の約7割に柵が設置されていますが、大山新～北野新田～北野～大山下間は電気柵等で対応していただいています。

この度、4集落の役員の皆様のご努力と住民の皆様のご理解により上記区間に金網柵を設置していく方針を固めていただきました。

市も、現在28年度に事業ができるよう予算の検討に入っています。この事業ができれば大山全域の獣害防護柵が完成します。



数年後、篠山の教育は全国から注目を浴びる

篠山の学力水準の向上の取組みが本格化してきました。個別教材作成システムの導入やサイエンス教室の開催などで一人ひとりの理解度や興味に合った勉強ができるようになってきました。

また、丹南中学校などの中学校では全国的に珍しい予習重視の授業づくりに取り組まれています。生徒たちは、自宅で短いビデオ等をみて予習し、次の学びの目的を理解してから授業に臨んでいます。

この方法は「反転授業」と呼ばれています。この反転授業により驚くほど生徒たちの学びの意欲が高まり、成績が急上昇し始めました。

あと2年もすると篠山の教育は全国から注目され、テレビや専門誌で多く取り上げられるでしょう。



学童保育・預かり保育の充実進む

保護者の就業が進み小学校・幼稚園終了後や長期休暇中などに子どもを預かって欲しいというニーズが高まっています。このため、味間では認定子ども園の新校舎の建設が進むとともに市内全域でサービスを拡充する準備が進んでいます。

大山地区では、保護者や地域の皆さんの運動もあり、約500万円をかけて神田荘を改修して学童保育施設を整備することとなりました。4月よりのサービス開始となります。預かり保育は平成29年度以降の開設で検討が進んでいます。



市政情報 1 丹波市とのゴミ問題

最近新聞でも報道されている「丹波市とのゴミ問題」についてお知らせします。今回の問題は、去る12月に開催された丹波市議会での辻丹波市長等の発言や議会審査、また施設改修の負担金を出し渋っていることを新聞が大きく報じたものです。ただ、篠山市へは公式な申し入れは全くない状況ですので、正確には問題になる前の段階です。

丹波市の発言とは、

- 清掃センターの建設負担金、運営負担金は不公平である。(鬼頭副市長)
- センターの山南ゴミの受入れ期限は平成25年である。(辻市長)
- 県を入れずに2市で話をしたい。(辻市長)
- 今後は、(県の広域化計画によらず)両市それぞれでゴミ処理をするように提案したい。(辻市長)



辻丹波市長

過去の経緯

- 篠山市合併前 (多紀郡) 合併後新しいゴミ処理場を建設することを決定。
- 平成11年 3月 地元と25年間の操業で確認書を交わす。
兵庫県ゴミ処理広域化計画が策定される。篠山市誕生。
- 平成12年 8月 篠山市と山南町の間で、①山南のゴミをすべて受け入れること、②共同して事業を行う「協議会方式」を採用すること、③25年事業の途中で丹波市が合併しても協議会方式を変更しないこと、を確認する。
- 平成14年 4月 両市町間で①建設費及び運営費の負担割合②山南のゴミは県広域化計画実施まで受け入れることを確認。
- 平成14年11月 篠山市清掃センター焼却施設が完成する。
- 平成16年11月 丹波市誕生

(合併時の新市建設計画の内容)

- ・焼却施設の利用については、現行単位の処理区域で行い、新市において調整する。
- ・篠山市清掃センター運営協議会については、合併の日の前日をもって規約を廃止し、合併の日に新市において、現行規約の内容により新たに規約を定める。

- 平成17年 3月 篠山市と丹波市の間で、運営費の負担割合を「20%を均等割、20%を人口割、60%をゴミ搬入量割」に見直す。
- 平成19年 1月 丹波市、「循環型社会形成推進地域計画」にて、県広域化計画の実施までは市内のゴミ(山南含む)を新施設で処理することとする。
- 平成19年 6月 篠山市長、丹波市に「約束を守って欲しい。」と申し入れる。
- 平成20年 8月 篠山市清掃センター運営協議会にて、辻丹波市長が「丹波市の新施設で山南のゴミも処理したい。」と表明する。
酒井篠山市長、丹波市に文書で約束の誠実な遵守を要請する。
- 平成20年11月 これから翌年夏までの間、2市の間で協議調整が行われる。「①県の広域化計画の変更をと②同計画実施までの過渡期の運営費の見直し」を求める丹波市と「従来通り」を求める篠山市の意見は平行線をたどる。
- 平成22年 丹波市、新施設のごみ処理方式をめぐる混迷、完成時期が大幅に遅れる。

この間、両市の協議行われず。

- 平成27年 3月 丹波市、新施設「丹波市クリーンセンター」が計画より6年遅れで完成する。

Q. 清掃センター負担金は不公平なの？

今回、鬼頭丹波副市長が「建設費負担金も不公平」と述べられたことは論外として、現在の運営費負担金は平成17年に確認した負担率で計算されています。

丹波市の主張は、山南町のごみ処理単価が篠山市の処理単価の2倍になっているのは不公平だということです。少々古い数字ですが、例えば平成19年度の場合、1トン当たりの処理コストは篠山市の25,115円に対し山南町分48,934円で確かに2倍です。しかし、市民一人当たりの処理コストでは、篠山市9,071円に対し山南町分9,512円となり、ほぼ同等です。

では、なぜトン当たりの処理コストでこんなに差が出るのでしょうか？ それは、山南町からの直接持ち込みごみの量が極端に少ないからです。ゴミ収集車が集めてくるごみの量は篠山も山南も計画通りですが、直接センターに持ち込まれるごみ量の違いで単価に大きな違いが出ています。

一つの原因として山南町の皆さんが直接ごみを持ち込もうとする際に煩雑な手続きがあることが考えられます。篠山市民の場合は、直接ごみを持ち込む場合、すべての手続きがセンターでできますが、山南在住の丹波市民の皆さんは「①山南支所での申請→②許可→③センターへ持ち込み→④山南支所で料金支払い」と煩雑です。これでは多くの方が直接持ち込みを躊躇してしまいます。

丹波市は「不公平」と主張する前に市民の不便を解消してあげて欲しいと思います。

Q. 約束はホントに平成25年までだったの？ 「25年事業」の謎？

篠山市が地元と交わした覚書には清掃センターの操業期間は「25年間」と記されています。また、センター建設時の借入金の返済期間は15年（平成30年まで）です。建設費の償還は最後まで応分の負担を負うことになっており、このことから確認書類に残っている「25年事業」は25年間（平成39年まで）としか解釈できません。丹波市の主張は無理があります。

Q. 兵庫県ごみ処理広域化計画はどんな計画？

平成11年に策定された兵庫県の計画で、市町を越えた範囲の効率的なごみ処理を推進するものです。丹波地区では、概ね平成28年度（全体計画の目標年度）にごみ焼却施設を統合して1つにすることになっています。

篠山市はこれまでこの計画を尊重してきましたが、丹波市は下の過渡期のスケジュールも十分検討された形跡はなく、平成19年頃からは実質この計画と異なった独自計画をつくられています。そして最近の丹波市は、広域化計画は実情に合っていない変更が必要だと主張されています。

(参考) 広域化計画に示されている過渡期のスケジュール

